



あべ かずお 阿部 一男 議員

■オーガニックフェスタについて

目的および内容について伺う。

A

「オーガニックフェスタinいわて」として10月24日、25日の2日間、花巻市上町周辺を歩行者天国にして開催する方向で調整中である。現在、花巻市有機農業推進協議会の構成員が中心となり検討を行っているところであり、主にマルシェや講演会等を行う予定としている。今後マルシェの出店者募集を行い、10月初旬には詳細について周知する方向で進めている。



■花巻市木材利用促進会議について

活動内容および花巻産木材の活用実績について伺う。

A

活動としては、市所有の公共建築物等における毎年度の木材利用計画の策定や実績の取りまとめ等を行い、木材の利用促進を図っている。花巻産木材の直近の活用実績としては、市営本館アパート、宮沢賢治童話村、ホテルベルンドルフの内装の修繕など5件あり、木材総使用量46・7㎡となっている。

■高額療養費制度の見直しについて

8月からの高額療養費上限額の改正の内容および国民健康保険加入者への影響について伺う。

A

令和8年8月からの所得に応じた区分ごとに設定している月額自己負担限度額が引き上げられる。所得の高い区分で最大1万7100円、住民税非課税世帯で7000円の引き上げとなる。令和9年8月の見直しでは、所得区分がさらに細分化され、自己負担限度額が引き上げられ、最大8万6420円、住民



さくらい けん 櫻井 肇 議員



よこた しのぶ 横田 忍 議員

■歳入の確保について

公共施設の使用料の見直しについて伺う。

A

見直しの視点として、一つ目に「市民優先の料金体系の導入と受益者負担の公平性の確保」、二つ目に「利用者が分かりやすい料金区分の設定」、三つ目に「類似施設における料金算定基準の統一」を掲げており、作業の進捗状況につきましては、令和9年4月の料金改定を目標にして、対象施設の選定や基準料金の検討を行っており、12月定例会までに、使用料の条例改正案を提出することを目指して、進めていく。



■基金の運用管理について

(仮称)基金運用管理委員会設置の市の見解について伺う。

A

基金運用管理委員会の設置については、補正予算の都度、金利の動向などを踏まえた基金の運用状況の情報共有を行っており、十分に機能していると判断され、委員会を新設することは、事務量・人的負担の増加につながるため現時点では設置を考えないところではあるが、基金本来の目的への活用に支障が生じない範囲で、最大限の利益が得られることを目指して効率的な運用をしていく。



にたい かずひろ 似内 一弘 議員

■市民との共創について

市長が市政の基本姿勢として掲げる「市民との共創」の具体的な推進方法について伺う。

A

市政懇談会やまちづくり懇談会、市長との対話、要望陳情の受付、市長へのはがきおよびメールなど、市民の声を聴いたり、提言を受けたりするための重要な手段を通じて生まれたアイデアを参考にしながら市政に取り組んでいくことは、市民との共創につながる有効な推進方法の一つであると考えている。市民との共創をより実効的に推進していくため



■部活動の地域展開・地域連携について

中学生の安全が確保された部活動の地域展開・地域連携を進めていくために、国の「地域展開等推進事業」を活用すべきと考えるが見解を伺う。

A

当該事業は、スポーツ庁および文化庁による補助事業である。子どもたちの豊かで幅広い活動の機会を保障するために、市としての事業を導入すること、を前提としながら、市内の関係各課および団体と連携して、まずは地域クラブを管理指導していく体制づくりから始めていきたいと考えている。

■宮沢賢治イーハトーブ館の今後の展開について

賢治作品にちなんだアニマルのリラリウム設置の考えはないか伺う。

A

市では現在、宮沢賢治学会イーハトーブセンターに依頼し、研究者および一般来館者向けの新たな動画の作成を行っており、本年賢治生誕130年にあたり11月に国際研究大会の開催を予定しておりこの場で完成した動画をお披露目することとしている。プラネタリウム設置は整備費、運営費等の観点から現時



さき ますひろ 佐々木精市 議員



点では難しいと考えている。

■人口減少対策について

「ふるさと住民登録制度(※)」を創設する考えはないか伺う。

A

総務省では令和8年度内の制度開始を想定し、準備を進めているところであると同っている。市としては、二地域居住をはじめとする関係人口創出に有益で担い手問題などの解決に資する一つの方策となる制度と考え、今後の総務省および、他自治体の動向を踏まえながら、制度への参画に向けた準備を進めていく。



すがわら ゆかり 菅原ゆかり 議員

■母子保健について

低出生体重児およびその家族の支援について搾乳器や冷凍の母乳パック購入に係る費用の助成について伺う。

A

早産児を出産した母親は様々な不安を抱えている。生後2カ月前後の家庭へ「こんにちは赤ちゃん訪問の機会があり、支援が必要と判断される場合、心と体の状態を聞きながら必要な支援を行っている。搾乳器の助成については、先進的に取り組む自治体の状況等について調査している。



■高齢者の健康について

RSウイルス(※)ワクチンについて、基礎疾患を持つ高齢者に対する費用助成の考えについて伺う。

A

高齢者へのRSウイルスワクチンの定期接種料の判断はしばらく時間がかかると推察される。現時点で本市が独自に高齢者へのRSウイルスワクチンへの接種助成を実施することとは検討していないが、今後の国の厚生科学審議会の動向を注視し、他の自治体の情報収集も引き続き実施していく。

※ふるさと住民登録制度：住民票を移さず関わりたい地域のふるさと住民として登録し継続的につながることができることとされる制度。
※RSウイルス感染症：急性の呼吸器感染症。年齢を問わず何度も感染を繰り返すといわれている。